

All Transistor 7石2バンド・ラジオ出現



日本で最初のオール・トランジスター(7石)の2バンド・ポータブルがT社より売り出された。回路の概略は下のブロック・ダイアグラムを見ればご想像がええると思うが、RF部とIF以下の本体が別々の基板にプリント配線されている。右の写真にクローズアップしましたRFブロックのコイルパックには、左より周波変換部、アンテナ同調コイル、局発コイルの3個、それに中央の金具がバンド・スイッチである。

バンド切換は、右上の写真にごらんのように正面ダイヤルの右横についているポッチを引っ張り上げると短波帯に切換わる。

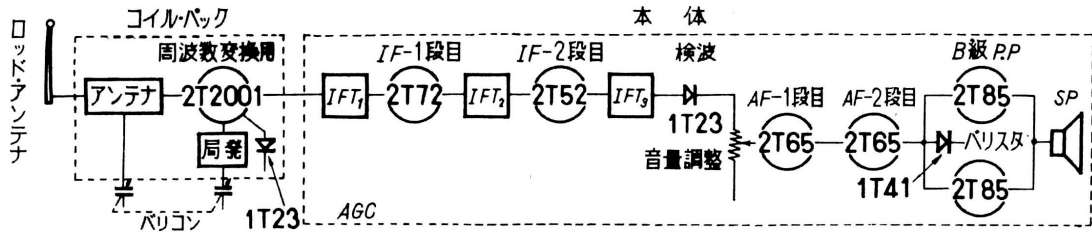
BCバンドを聞く場合には、自蔵のバーアンテナを用いるが、SWの場合にはロッド・アンテナを引きのばさなければならない。屋外のアンテナ線の一端をつなげばなお良好に受信できる。感度は普通市販のRFなし5球2バンド・スーパ程度である。

側面にイヤホン・ジャックがついている。規格の詳細は次に述べるような

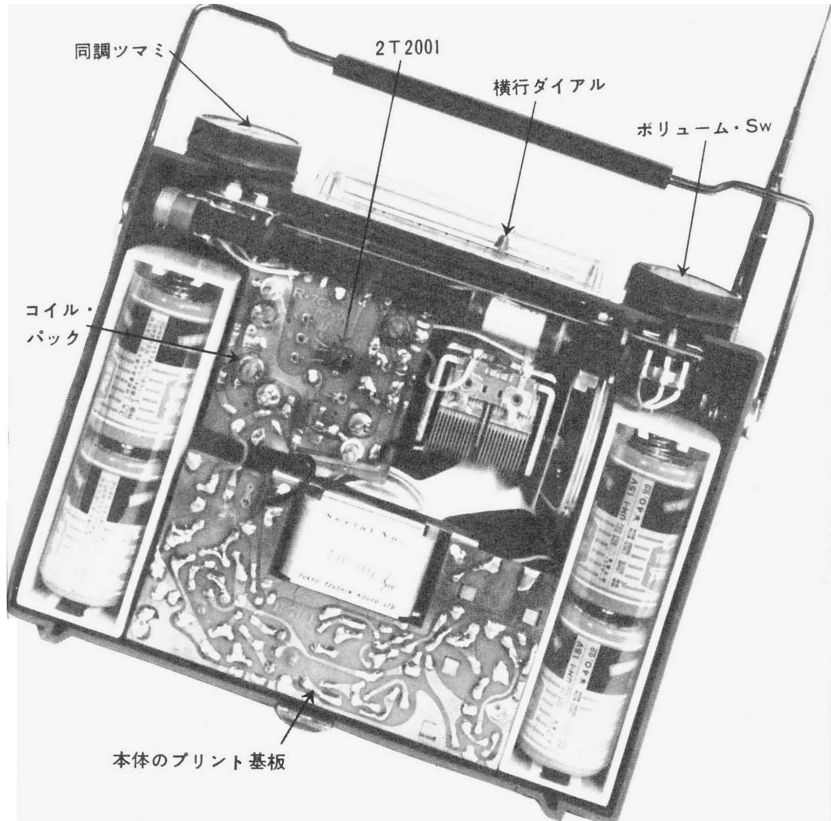
ものである。

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---------------------------------|
| ① 受信周波数範囲 | BC(中波) 帯 | 535 ~ 1605kc |
| | SW(短波) 帯 | 6 ~ 8Mc |
| ② 中間周波数 | | 455kc |
| ③ 実用電界強度 | BC 帯 | 自蔵バーアンテナで 約 100 μ V/m |
| | | 実効高 5m のアテナをつけて 約 10 μ V/m |
| | SW 帯 | 自蔵ロッドアンテナをのばして 約 100 μ V/m |
| | | 実効高 5m のアンテナをつけて 約 10 μ V/m |
| ④ 選 択 度 | 10kc 離調時の減衰度 | 20db 以上 |
| ⑤ 最大無歪出力 | | 120mW(歪率 10%) |
| ⑥ 電 源 | | 単一乾電池 4 コ (6V) |
| ⑦ 消 費 電 流 | 入力信号なきとき | 約 8mA |
| | 出力 120mW のとき | 約 50mA |
| ⑧ ア ン テ ナ | 自然バーアンテナ | 10 ϕ × 180 |
| | ロッドアンテナ | 全長 1m(7 段引伸) |
| ⑨ ス ピ ー カ ー | 4" × 6" 楕円型パーマネント・ダイナミック | |
| | ボイス・コイルのインピーダンス | 8 Ω |
| ⑩ イ ヤ ー ホ ン | | マグネチック型インピーダンス 8 Ω |
| ⑪ 寸 法 | 把手別 間口 244 × 高さ 193 × 厚サ 78() | |
| ⑫ 重 量 | | 電池ともで約 2.5 |

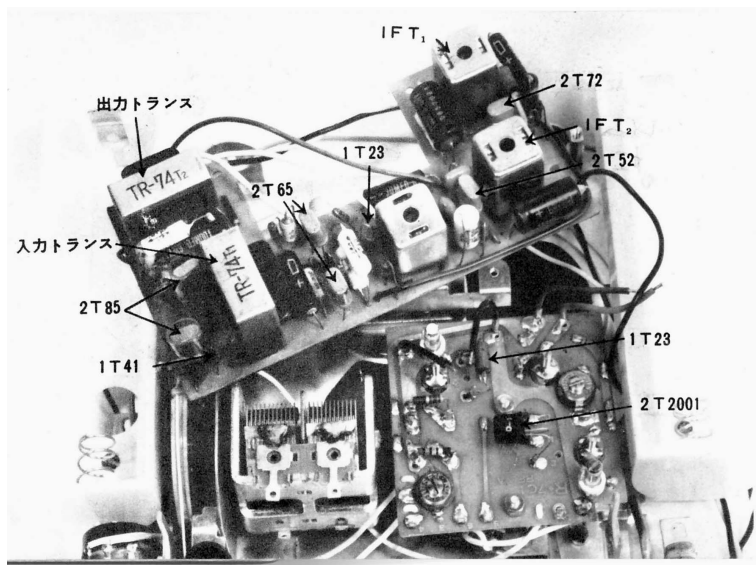
(『無線と実験』1958年1月号グラビアページ)



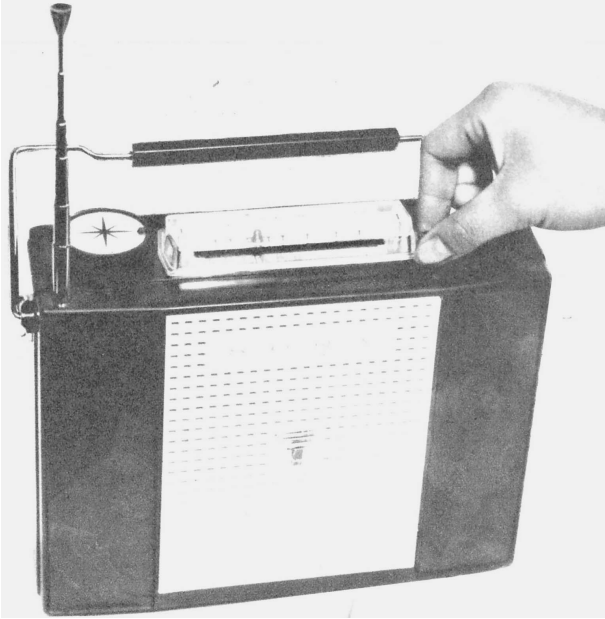
第 1 図



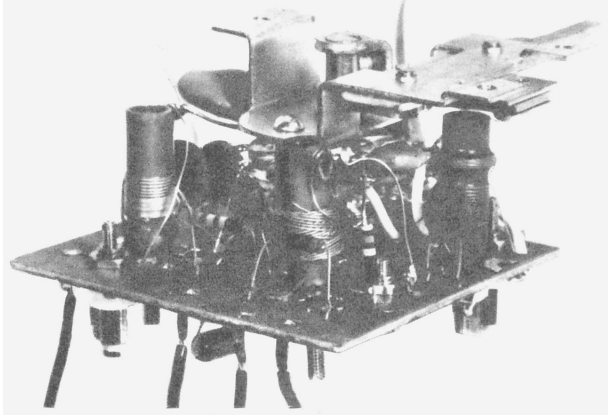
第 2 図



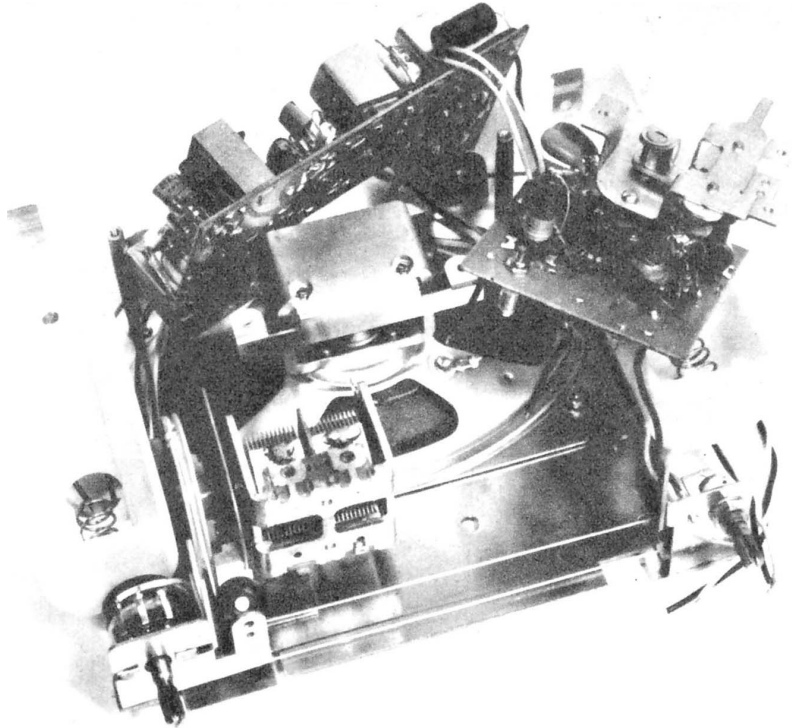
第 3 図



第4図 短波帯の切替ポッチ



第5図 RF部のコイルパック



第6図